

第 11 回日本訪問歯科医学会 プログラム

「つながるこころ訪問歯科診療 ー外来から訪問へー」

- 2011 年 11 月 20 日(日)
- 東京国際フォーラム ホールB5

◎ 特別講演

医療は変わる ～診察室から地域へ～

独立行政法人 国立長寿医療研究センター 総長 大島 伸一氏

医療連携とチーム医療

東京歯科大学 社会歯科学研究室 教授 石井 拓男氏

◎ 会員発表

当院における訪問歯科診療・・・これまでの6年間と今

スマイル歯科おざき 尾崎 康子氏

CAN-NOT から、CAN-DO へ ～新規参入型訪問診療の役割～

谷口歯科医院 保田 晃宏氏

ドライマウス～臨床像の多様性とその治療～

宇川歯科 西岡 寛晃氏

当院における訪問診療の変遷・・・9 年の訪問診療を通して

二木歯科医院 小川 晋氏

代診の先生とスタッフに感謝ー2005 年 1 月～現在ー

岡歯科医院 岡 芳光氏

◎ 特別講演

歯科の重要性を再認識する～栄養・連携・経過観察～

奥州市国保衣川歯科診療所 佐々木 勝忠氏

◎ パネル講演

東日本大震災における被災地での実際

山谷歯科医院 山谷 立憲氏

片手で行ける訪問診療

赤井歯科医院 宮間 正泰氏

医療は変わる～診察室から地域へ～

独立行政法人国立長寿医療研究センター総長
大島 伸一

我が国はかつてない高齢社会を迎え、社会が大きな転換を求められているが、医療も今までの医療から大きく変わりつつある。

その変化の方向は、一言で言えば「治す医療から治し支える医療へ」、そして、「診察室、病院の医療から地域の医療へ」である。

今までの医療は、「医術で病気を治す」（広辞苑）という医療を、診察室、病院で完結させるというものであった。

超高齢社会を迎え、そもそも高齢者にとって相応しい医療とは何か、そして、そのような医療を提供するにはどのような体制がよいか問われるようになり、単に治すことだけが医療の目的ではなく、治すということはむしろ手段であって、その人が求める人生や生活を実現するために、支援することが本来の医療の目的ではないか、という考えが支持されるようになってきた。

日本歯科医師会は、広く国民の各層から委員を選び、国民歯科会議を組織して検討を重ねた。

国民歯科会議では、①歯科医療の目的を「歯の治療」から「食べる幸せ」へと拡げて欲しい、②活躍の場を診察室から地域社会へと展開して欲しい、③地域では様々な職種と協働し、全人的医療の一翼を担って欲しい、と、これからの歯科医療の在り方について、提言をまとめ、日本歯科医師会長に提出した。

ここでも明らかのように、今後の歯科医療の在り方について、診察室から出て地域で支えてゆこうという方向性を示している。

●略歴 大島 伸一（おおしま しんいち）

略 歴 昭和45年4月 社会保険中京病院臨床研修医
昭和46年4月 社会保険中京病院医員（泌尿器科）
昭和56年1月 社会保険中京病院部長（泌尿器科）
昭和61年9月 社会保険中京病院主任部長（泌尿器科）
平成4年4月 社会保険中京病院副院長
平成9年1月 名古屋大学医学部泌尿器科学講座教授
平成12年2月 名古屋大学医学部附属病院副病院長
平成14年11月 名古屋大学医学部附属病院病院長
平成16年3月 国立長寿医療センター総長
平成22年4月 独立行政法人国立
長寿医療研究センター理事長・総長役職
平成21年4月 国立大学法人名古屋大学名誉教授

所属学会 日本泌尿器科学会（名誉会員）
日本臨床腎移植学会
日本泌尿器内視鏡学会（評議員）
日本移植学会（名誉会員）
日本老年医学会（理事）
日本内視鏡外科学会（名誉会員） ほか

社会活動 社会保障審議会介護給付費分科会（臨時委員）
医道審議会医道分科会（臨時委員）
日本学術会議（会員）
社団法人日本臓器移植ネットワーク（理事）
財団法人日本腎臓財団（理事）
一般社団法人全国在宅療養支援診療所連絡会（顧問）
社会福祉法人愛知県社会福祉協議会（理事）
公益財団法人長寿科学振興財団（理事）
公益財団法人科学技術交流財団（理事）
あいち健康長寿産業クラスター推進協議会（会長）
財団法人愛知腎臓財団（副会長） ほか

医療連携とチーム医療

東京歯科大学社会歯科学研究室教授

石井 拓男

在宅歯科医療から始まった医科と歯科の連携について、これまでに無く相互の、また社会の認識が高まったことが明らかとなってきた。厚生労働省の会議に、医科歯科連携が全面的に取り上げられ、さらに厚労省のモデル事業等でも医科歯科連携が盛り込まれるようになった。医科歯科連携は、在宅医療で始まったものが病院でもその必要性が認識され広まったのである。これで、急性期から回復期、そして在宅という流れの中に医科歯科連携が位置づけられる様相が見えてきたと思われる。

上記の様な流れは、一方で医科歯科連携が制度として十分こなれていなかったことも明かとしつつある。それは、医師法、歯科医師法、保助看法そして歯科衛生士法に及ぶものである。これらの制度が円滑に機能し、国民の健康と福祉のために寄与するためには、もう少し各方面で幅広く議論し、コンセンサスを形成する必要があると思う。このことを皆様と一緒に考えたいと思う。

● 略歴 石井 拓男(いしい たくお)

主な公職歴 1972年 愛知学院大学歯学部助手（口腔衛生学教室）
1978年 愛知学院大学歯学部講師
1988年 愛知学院大学歯学部助教授
1990年 厚生省入省
1993年 厚生省保険局歯科医療管理官
1995年 厚生省健康政策局歯科衛生課課長
1999年 東京歯科大学社会歯科学研究室教授
2004年 東京歯科大学千葉病院長
2010年 東京歯科大学歯科衛生士専門学校長
2011年 東京歯科大学副学長

学 会 日本口腔衛生学会理事（現）、日本歯科医史学会理事（現）
日本保健医療行動科学会評議員（現）、日本歯科医学教育学会監事（現）、
日本公衆衛生学会評議員（現）、日本老年歯科医学会評議員（現）、
日本歯科衛生学会顧問（現）
厚生労働省 医道審議会委員、歯科医師臨床研修推進検討委員会 座長
社会保険診療報酬支払基金 歯科専門役（現）
日本歯科医師会 日本歯科総合研究機構 研究部長（現）
歯科衛生士の業務と養成に関する検討臨時委員会委員
日本歯科医学会 歯科診療ガイドラインライブラリー協議会委員
日本歯科衛生士会 日本歯科衛生学会顧問（現）
歯科医療研修振興財団 評議員（現）
財団法人8020推進財団 8020調査研究委員会委員（現）

主な著書 医療連携による在宅歯科医療（共著）：ヒョーロン、2008
明日の在宅医療（共著）：中央法規、2008
高齢者の口腔管理（共著）：日歯総研、2008
歯科医療白書2008年版（共著）：日本歯科医師会、2009
口腔保健推進ハンドブック（共著）：医歯薬出版、2009
スタンダード歯科医学史（共著）：学建書院、2009
健康寿命を延ばす歯科保健医療（共著）医歯薬出版、2009
スタンダード社会歯科学 第4版（共著）：学建書院、2010
歯科衛生士と法律（共著）：医歯薬出版、2011

■ 会員発表

当院における訪問歯科診療・・・これまでの6年間と今

スマイル歯科おざき
尾崎 康子

平成17年8月、当院往診部がスタートした。往診車1台に歯科医師1名、スタッフが1名、当初は、デイサービスでのお口の健康相談が主であったが、老健施設での歯科診療が入り始め、やがてケアマネージャーから声がかかるようになり、居宅の患者さんの予約が予約簿をうめるようになった。あれから6年が過ぎ、今年の夏で7年目に入った。

今回、当学会で発表するにあたり、6年間に蓄積されたデータを解析する機会を得た。この度の発表では、最初に、そのデータ解析の結果として浮かび上がった当院の特徴を探ってみた。次に定期的に口腔ケアでうかがっている特老の入所者を対象に、一定期間調査した口腔機能評価の結果を考察した。

また、訪問歯科診療の診療内容において高い割合を占める有床補綴のうち、義歯制作難症例に対して取り組んでいる症例を取り上げてみる。さらに、これまで全身管理の必要性のある専門性の高い症例については、近隣の病院へ照会状を書いて患者さん自身に出向いてもらうことで対応していたが、今年からは大学病院の協力を得て、病院機能に活用による地域連携を実現し始めている。今回、その中でいくつかの症例を紹介したいと思う。

最後に、この発表をきっかけにこれまでの反省点、問題点を明確にして、今後の展望を導きだしたいと考えている。

●略歴 尾崎 康子 (おざき やすこ)

平成4年3月 新潟大学歯学部卒業
平成8年3月 新潟大学大学院歯学研究家博士課程修了 博士(歯学)
平成8年4月 新潟大学歯学部附属病院医院(第2補綴科)
平成10年7月 新潟大学歯学部歯科補綴学第2講座助手
平成21年3月 スマイル歯科おざき勤務 現在に至る

■ 会員発表

CAN-NOT から、CAN-DO へ

～新規参入型訪問診療の役割～

谷口 歯科
保田 晃宏

当院が訪問診療を本格的に開始してから1年と3ヶ月がたちました。一般には箱物と呼ばれるマーケットは大手医療法人が独占し、新規参入が出来ない状況になっております。又高度な口腔ケアの知識・テクニックがなくリスクも高い為、二の足を踏んでおられる医院も多いとおもわれます。

しかし、現実現場にでると、訪問診療を望んでいる患者様は非常に多くおられます。新規参入のG・P（一般開業医）ならできる、G・Pに特化した訪問診療のスタイルを模索いたしました。CAN-NOT（出来ない）ではなく、CAN-DO（出来る）の発想で、患者様を幸せにしていきませんか？

●略歴 保田 晃宏（やすだ あきひろ）

H13年大阪大学歯学部卒業
H13年4月同大学保存部入局
H15年3月同科退局
H15年谷口歯科勤務

ドライマウス～臨床像の多様性とその治療～

宇川歯科
西岡 寛晃

昨今、ドライマウスは注目されつつあり、その治療法についての紹介も多い。しかしながら、その臨床像が多様であるが故に、患者さんの訴えからドライマウスではないかと気づき、的確に診断するチャンスを逃すことが多い。

すなわち、それは、ドライマウスが基本的な病態として存在しているにも関わらず、必ずしも患者さんが直接的に“口が渇く”ので困っていると訴えるわけではないことに起因している。

入れ歯が合わない・痛い、口の中がヒリヒリする、口の中がしびれる、舌が痛い、味が変わる（味覚異常）、飲み込みにくい等の訴え（摂食嚥下障害）がドライマウスに因ることがある。私たちが行なっている往診での高齢者の方々には、ドライマウスが基本的な病態として存在していることが多いと考えている。

今回私たちは、ドライマウスの患者さんの臨床像と、それらの方々に行なった診断法、および治療法について報告する。

●略歴 西岡 寛晃（にしおか ひろあき）

平成 18 年 3 月 大阪大学歯学部 卒業
平成 20 年 3 月～現在 宇川歯科 勤務

当院における訪問診療の変遷・・・

9年の訪問診療を通して

二木歯科医院
小川 晋

当院で本格的に訪問診療が開始されてから今年で9年目となりました。
何も無いところからのスタートであったため、診療にあたってちょっとした問題で診療が困難になることがたくさんありました。

そういった問題にどのように対処していくかというのは小さなことですが解決していくことで診療がスムーズに行えるようになるため大変意義のあることだと考えています。

今回9年の訪問診療を通して様々な問題に我々がどのように対処してきたかを発表させていただきたいと思います。

よろしく申し上げます。

●略歴 小川 晋（おがわ しん）

2008年 広島大学卒業

2009年 広島大学臨床研修医修了

同年 二木歯科医院勤務 現在に至る

■ 会員発表

代診の先生とスタッフに感謝

—2005 年 1 月～現在—

岡歯科医院
岡 芳光

当院が往診をする様になって早 10 年、SOS さんと出会って 7 年が経過しました。私が開業して 13 年、開業当初は外来診療のみでした。

私の開業地は北九州のはずれにて、高齢者が大変多く、開業 3 年もいたしますと、自力で通院できない患者様が増えてまいりました。

患者様の御要望もあり、私と妻（衛生士）でお昼休みや外来診療後に簡易的な往診セットを持って、御自宅へ出向いておりました。

とは言っても、治療範囲に限度があり、外来と同レベルの診療ができない事にジレンマを感じておりました。

7 年前に SOS さんと出会い、治療の幅も広がり、往診依頼の患者様の数も増え、地域医療に貢献できる様にもなりました。これもひとえに、今まで当院を支えてくれた代診の先生方、そしてスタッフのみんな、SOS さんに感謝の気持ちを込めて御報告したいと思っております

●略歴 岡 芳光（おか よしみつ）

| | | |
|--------|----------|----|
| 1996 年 | 福岡歯科大学 | 卒業 |
| | 鳥越歯科医院 | 勤務 |
| | かねさき歯科医院 | 勤務 |

| | |
|------------|--------|
| 1998 年 8 月 | 開業 |
| | 現在に至る。 |

■ 特別講演

歯科の重要性を再認識する ～栄養、連携、経過観察～

岩手県奥州市国保衣川歯科診療所

佐々木 勝忠

動物の歯がなくなることは、栄養確保が困難になり「死」を意味します。人間は、歯がなくなったとしても咀嚼しなくてもいいように食べ物を軟らかく加工することによって、あるいは歯科治療によって食形態を落とすことなく栄養を確保します。

食形態が軟らかいものに落ちることによって低栄養に陥りやすくなり、特に障害高齢者においては嚥下障害も加わり高度な低栄養になり、肺炎や褥瘡などの症状を引き起こします。歯科治療で食形態を向上させることによって栄養改善がなされ、ADLの向上につながりますので、栄養の観点から患者の歯科治療後の経過を観察することで歯科の重要性を再認識することができます。

要介護者の90%弱に歯科治療・口腔ケアの必要性がありながら、実際に歯科の恩恵を受けている要介護者は27%という調査結果があります。歯科ニーズがあるにもかかわらず受診行動につながらない要因の一つとして、要介護者に関わる方々に歯科の重要性の認識が不足していることがあげられます。私が経験した低栄養、栄養評価にかかわる症例などや、私の所属する奥州市歯科医師会での取り組みなどを紹介したいと思います

●略歴 佐々木 勝忠 (ささき かつただ)

昭和52年3月 岩手医科大学歯学部卒業

昭和52年4月 岩手医科大学小児歯科

昭和55年4月 奥州市国保衣川歯科診療所勤務
役職

全国国民健康保険診療施設協議会地域医療学術委員・診療所部会委員、日本歯科医師会在宅歯科医療推進チーム委員、日本リハビリテーション病院・施設協会口腔リハビリ推進委員、岩手医科大学歯学部非常勤講師、岩手医科大学歯科医師臨床研修委員会委員、岩手医科大学歯学会評議委員、岩手県歯科医師会理事

著書

「予防歯科・成功への道」共著、「医療連携による在宅歯科診療」共著、「地域医療の新たな展開」共著、「健康寿命を延ばす歯科保健医療」共著、「口腔リハビリテーションに関する医科歯科連携の事例報告」共著

■ パネル発表

東日本大震災における被災地での実際

山谷歯科医院
山谷 立憲

私は宮城県気仙沼市（旧本吉郡）にて開業し本年 3 月 11 日の東日本大震災の被災地の最前線にいました。

現地での実際、震災直後からの活動等タイムライン形式にて発表したいと思います。訪問歯科協会の中でも津波から近い会員として何か皆様にお伝えできれば幸いであり、今度の皆様の対策等に役に立てればいいかと思えます。

またあの未曾有の大震災を忘れない様、パネルという形をとらせて頂きました。（9 月 28 日現在宮城県死者 9425 人 行方不明者 2092 人）

また、この震災で亡くなられた方々に心よりご冥福をお祈りいたします。

●略歴 山谷 立憲（やまや たつのり）

| | |
|--------------|-----------------|
| 平成 15 年 3 月 | 岩手医科大学歯学部卒業 |
| 4 月 | 宮城県栗原市 近藤歯科医院勤務 |
| 平成 20 年 | 日本訪問歯科協会認定医取得 |
| 平成 20 年 12 月 | 山谷歯科医院開業 |
| 平成 22 年 1 月 | 医療法人憲仁会設立 |

片手で行ける訪問診療

赤井歯科医院
宮間 正泰

近年、訪問歯科診療の需要がますます増加の傾向にあるが、訪問診療を実施している医院はまだまだ少ない。診療所で診ていた患者さんが何らかの理由で歩行や外出が困難になった時、やはり今まで通院していた先生に診ていただきたいと思っているに違いない。

訪問診療と言うと、経験がない、機材がないと言って最初から諦めている先生方や、これから行いたいと思っているが中々踏み出せない先生方に、まずは気軽にあまり経費をかけずに行っていただきたいと思う。

当院では訪問診療を始めてから十数年がたったが、始めた当時は訪問診療用と謳っている機器を色々購入してみたものの、効率よく使用できるものではなかった。歯を形成するためにポータブルユニットを患家に運ぶだけでも一苦勞で、その上設置にはかなりの時間を要す。現在でもあまり変わらず、高価な割に便利に使える機器が無いのが現状である。そんな中で様々な工夫を凝らしながら行ってきた経験を生かし、よりコンパクトでスマートで気軽にできる訪問診療を紹介したいと思う。

● 略歴 宮間 正泰（みやま まさやす）

鶴見大学歯学部卒業

ぎんなん歯科クリニック（相模原市）勤務

宮間歯科医院（川口市）

赤井歯科医院（川口市）

川口市立青木中央小学校 校医

新郷松原幼稚園 園医

川口市立元郷南小学校 校医

松葉幼稚園 園医

青木東保育所 園医

日本歯科医師会会員

川口歯科医師会会員

日本訪問歯科医学会会員

歯科医師会役職

川口歯科医師会理事

広報部部长

防災対策委員会副委員長

訪問診療協議会副委員長

病院高齢者協力医会委員

高齢者問題検討委員会委員

川口歯科医師連盟理事長

埼玉県歯科医師連盟評議員

埼玉県歯科医師会広報部常任部員

川口市高齢者総合福祉センターサンテピア担当医

特別養護老人ホーム 紫水苑担当医